参考資料 - 2

≪ 平取ダム地域文化保全対策検討会資料 ≫

アイヌ文化環境保全対策事業

－平取ダム地域文化調査業務－

2013(平成25)年度

調査作業基本計画

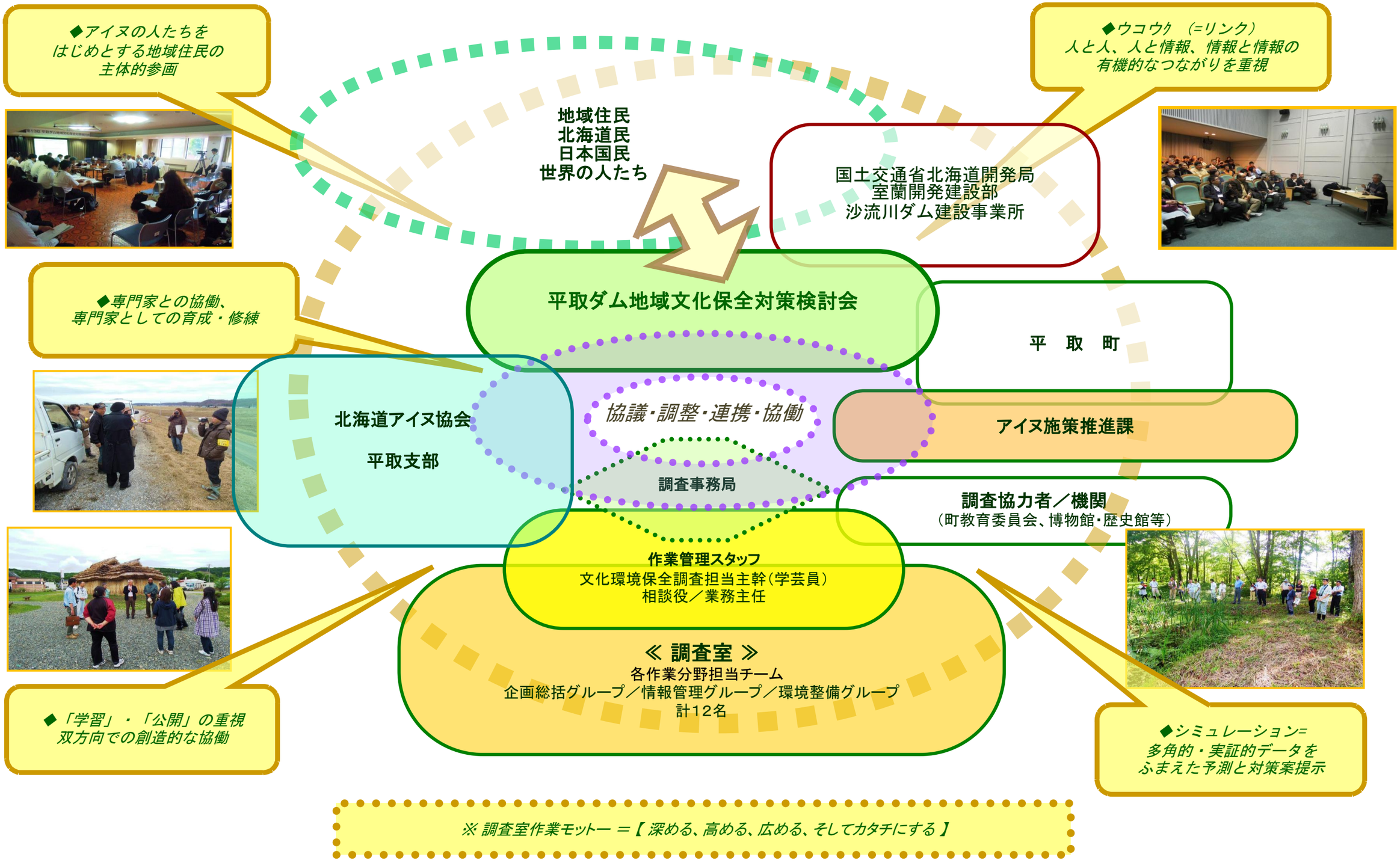
北海道 平取町

アイヌ施策推進課

アイヌ文化環境保全調査室

■アイヌ文化環境保全対策事業の体制概念図　（平成25年度）

事業
全般



＜ アイヌ文化環境保全対策事業 ＞
－平取ダム地域文化調査－

2013（平成25）年度
調査作業基本計画

作業分野		
1	精神文化保全対策に関する調査	
2	生物の生存環境現地調査	
3	（1）	生活文化現地調査 － 川洲畑現地調査
	（2）	生活文化現地調査 － 伝統的漁法についての調査
4	地域文化保全対策調査	
5	有用植物移植試験及びモニタリング調査	
6	沙流川河道掘削における事前調査	

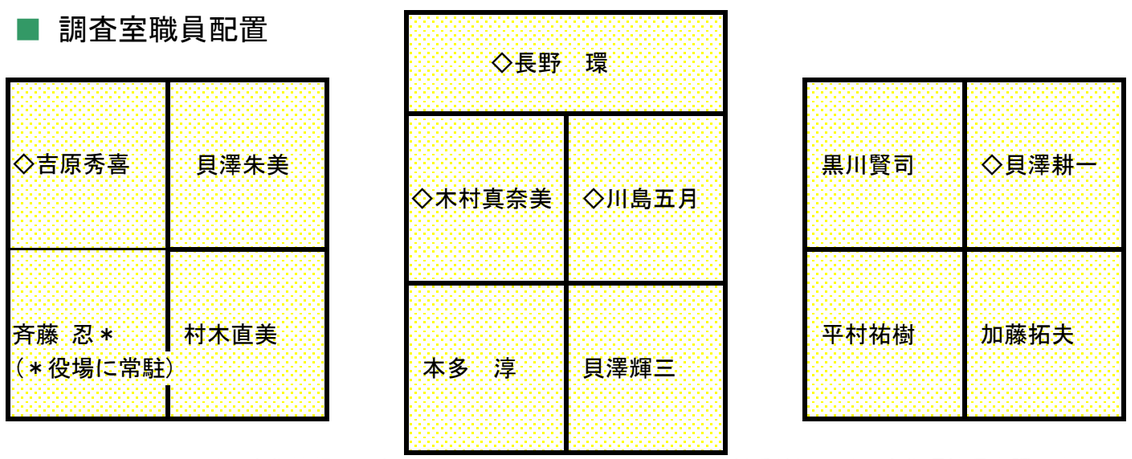
■ 調査分野別担当チーム

1	精神文化保全対策に関する調査	主担当	◎村木直美	＜補佐＞ ◇長野 環／吉原秀喜
		副担当	○貝澤朱美 /黒川賢司	
2	生物の生存環境現地調査	主担当	◎黒川賢司	◇木村真奈美
		副担当	○平村祐樹 /本多 淳/加藤拓夫	
3 －(1)	生活文化現地調査 － 川洲畑現地調査	主担当	◎貝澤輝三	◇川島五月
		副担当	○村木直美 /加藤拓夫	
3 －(2)	生活文化現地調査 － 伝統的漁法についての調査	主担当	◎平村祐樹	◇長野 環
		副担当	○黒川賢司 /村木直美/本多 淳	
4	地域文化保全対策調査	主担当	◎木村真奈美	◇吉原秀喜/長野 環
		副担当	○平村祐樹 /貝澤輝三	
5	有用植物移植試験 及び モニタリング調査	主担当	◎貝澤朱美	◇川島五月
		副担当	○貝澤輝三 /本多 淳/加藤拓夫	
6	沙流川河道掘削における事前調査	主担当	◎川島五月	◇吉原秀喜
		副担当	○長野 環 / 木村真奈美	

■ 運営課題別担当グループ

グループ名	グループ編成 及び 担当事項		
企画総括G	★長野 環　☆村木直美 / 平村祐樹 企画総括 ＋ データベース整備・運用	◇貝澤耕一 ＜相談員＞ 現地作業指導・安全対策	◇吉原秀喜 〈学芸員/主幹〉 全体総括・調整
情報管理G	★木村真奈美 ☆貝澤朱美 / 黒川賢司 / 本多 淳 情報管理 ＋ 報告書・コンテンツ編集		
環境整備G	★川島五月 ☆貝澤輝三 / 加藤拓夫 / 斉藤 忍＊ 環境整備 ＋ 庶務・ISO管理		

■ 調査室職員配置



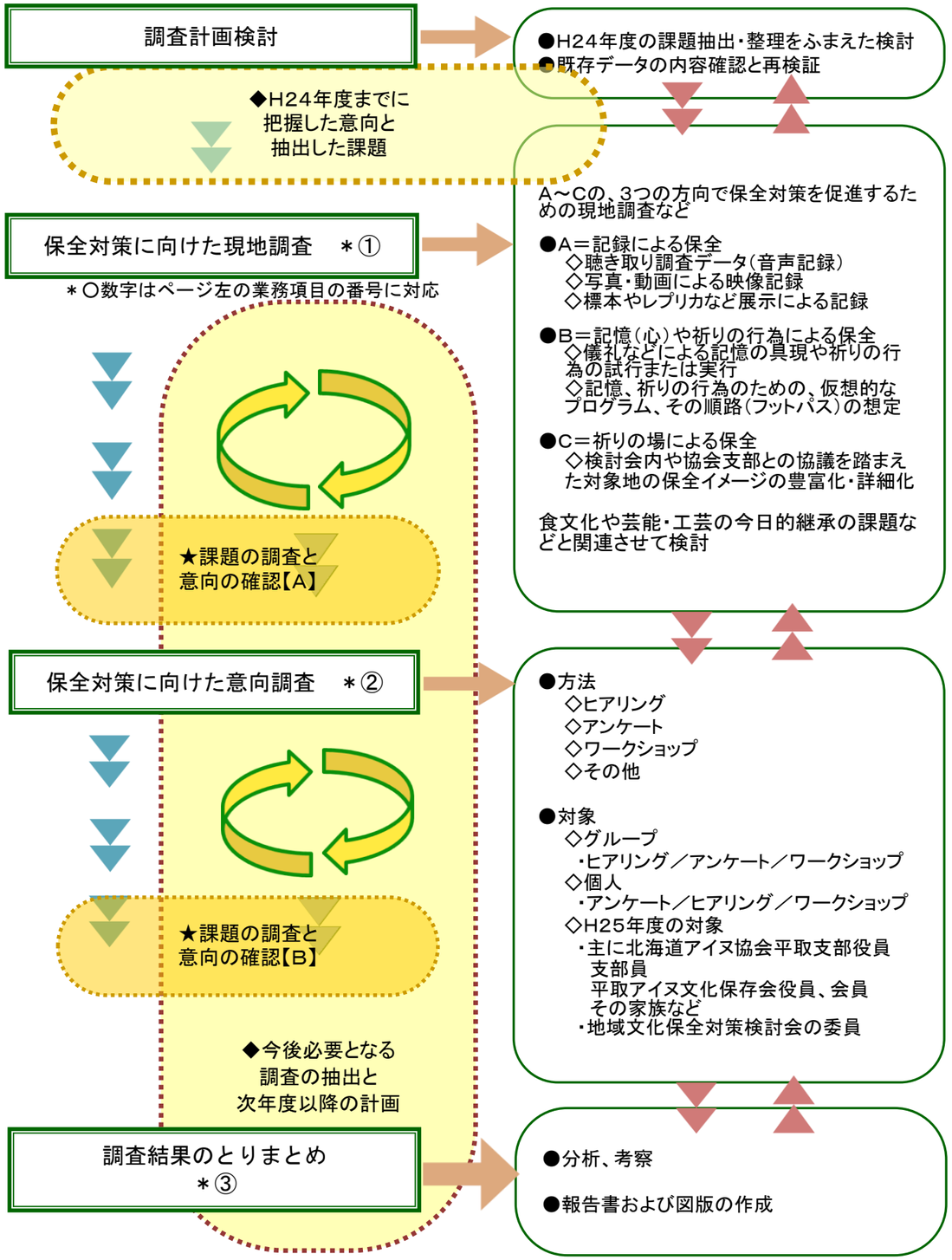
アイヌ文化情報センター内　（〒055-0101平取町二風谷61番地）アイヌ文化環境保全調査室

■ 調査室作業モットー（室訓） ＝ 深める、高める、広める、そしてカタチにする

事業名	平成25年度 アイヌ文化環境保全調査
業務分野	**１ - 精神文化保全対策に関する調査**
目的／課題 ※1	◆地域のアイヌの関係者の意向確認結果に基づき、精神文化の保全対策に必要な現地調査を実施し、調査内容を整理する。 ※１、※２の欄には委託契約文書の記載事項を引用
業務項目と内容･方法 ※2	①【現地調査】 　各保全対策の検討のために必要な精神文化に係る現地調査を実施する。特に昨年度業務で抽出された課題について調査を実施する。 ②【意向調査】 　各保全対策について調査方針及び結果について、地域の関係者の意向を確認する。特に昨年度業務で抽出された課題について調査を実施する。 ③【調査結果とりまとめ】 　調査結果をとりまとめ、課題の抽出を行い、次年度以降の調査計画（案）を作成する。
想定する成果 （状況/物品）	＊○内の数字は上の欄に対応 ①→　ア：対象の現況と抽出した課題を関連づけた説明文書／図版 　　イ：保全対策の提案、設計概念・方針・工程等を明示した文書／図版 ②→　ヒアリング等の意向調査の結果を集約・分析した文書／図版 ③→　①・②の成果をまとめた報告書：次年度以降の調査計画(案)を含む ★今日的な環境下において、地域特性をふまえつつ、関係者の意向にそった精神文化保全のあり方をさぐり、方向性を見いだし、具現化を促進する。
年間作業工程 （行程）概要	業務項目 ／ 4 5 6 7 8 9 10 11 12 1 2 3 ◆調査計画検討 ①【現地調査】　町内と北海道内各地における儀礼等の事例調査を含む ②【意向調査】　現況と課題の説明書=【A】　保全計画設計図書=【B】 ③【調査結果とりまとめ】　検討会などにおける報告　報告書作成 検討会または勉強会　○ ○ ○ ○ ○ 次年度以降調査計画(案)作成
作業･工程上の留意事項	各担当チームごとに、年間基本計画に基づきより詳細な作業計画・工程案を作成し、進捗状況に応じて随時見直しを行いながら業務課題を遂行する。 また、各分野担当チーム間の、あるいは各グループ相互の連携・協力に努める。 アイヌ文化情報センターを基盤とした情報の受・発信と、各種の文化振興事業・活動及び町立博物館・歴史館等関係機関との連携・協力の拡充を図る。
◎主･○副担当	◎村木直美　　○貝澤朱美　／　黒川賢司
補佐	◇長野　環　／　吉原秀喜
【参考】 前年度の成果総括 A◆成果の概括 B◆その特徴 C◆意義･課題	A◆精神文化の所産に関して、これまで現地調査等により蓄積した情報の補充に努めた。儀礼などに共に取り組むことを通じて、また関係団体役員からのヒアリングにより意向把握を行った。緊要な問題、可能な事項については実現に向けて対処しながら、今後において具現化を図るべき課題を整理しつつある。 B◆工事等の進展により生じた問題に即応し、当事者性の強い関係者の意向・意志確認を先行しつつ調整・促進の役割をになった。とくに儀礼的行為について、円滑な実施ができるよう準備作業等を支援したが、同時にスタッフにとっても「試行」の機会ともした。また、今後の精神文化保全対策に活かすために、一連の協議や「試行」過程を記録し、必要に応じて提供できる備えをしている。 C◆「今日的な社会環境下において、アイヌの精神文化継承のあり方をさぐり、方向性を見いだし、具現化を図る」とした想定目標に対する方向付けができた。開発事業に伴う精神文化保全に関するこのような試みは、従来の諸事業には例がほとんどなく、貴重な先行例となってきている。

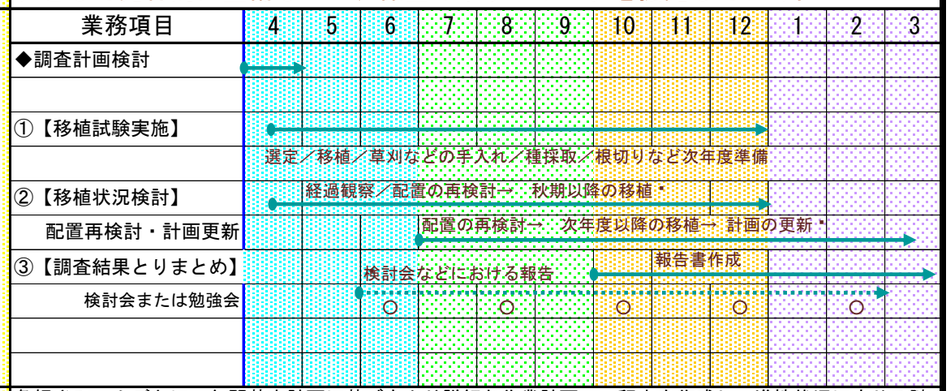
■　１-精神文化保全対策に関する調査の計画基本フロー　■

★想定する成果の重点★今日的な環境下において、地域特性をふまえつつ、関係者の意向にそった精神文化保全のあり方をさぐり、方向性を見いだし、具現化を促進する。



事業名	平成25年度 アイヌ文化環境保全調査
業務分野	**２ - 生物の生存環境現地調査**
目的／課題 ※1	◆植生モデル地区Ｓ－０５の整備計画案に基づき移植等を実施し、活着等の生育状況を確認するとともに、必要に応じて配置の再検討を行う。
業務項目と内容･方法 ※2	①【移植試験実施】 植生保全区域３５区域について、モデル区域Ｓ－０５の整備計画案に基づき移植を実施する。 ②【移植状況検討】 モデル区域Ｓ－０５の整備後、活着等の生育状況を確認、必要に応じて配置の再検討等を行う。 ③【調査結果とりまとめ】 調査結果をとりまとめる。 モデル区域Ｓ－０５の次年度以降の植栽計画について、精査を行う。
想定する成果 （状況/物品）	＊○内の数字は上の欄に対応 ①→　Ｈ22年度に作成、Ｈ23年度に着手、その後の状況をふまえて更新した計画をもとに、中心となるＳ－０５をはじめ植物保全３５区域で移植等の整備作業 ②→　業務分野５との連携でモニタリングを実施し生育状況を管理、整備計画を更新 ③→　①・②の成果をまとめた報告書：整備計画の発展的更新を含む ★整備計画を発展的に更新しながら、Ｓ-０５区域を主に展示を目的としたエリアとして先行的に整備しつつ、保全のネットワークを拡充していく。

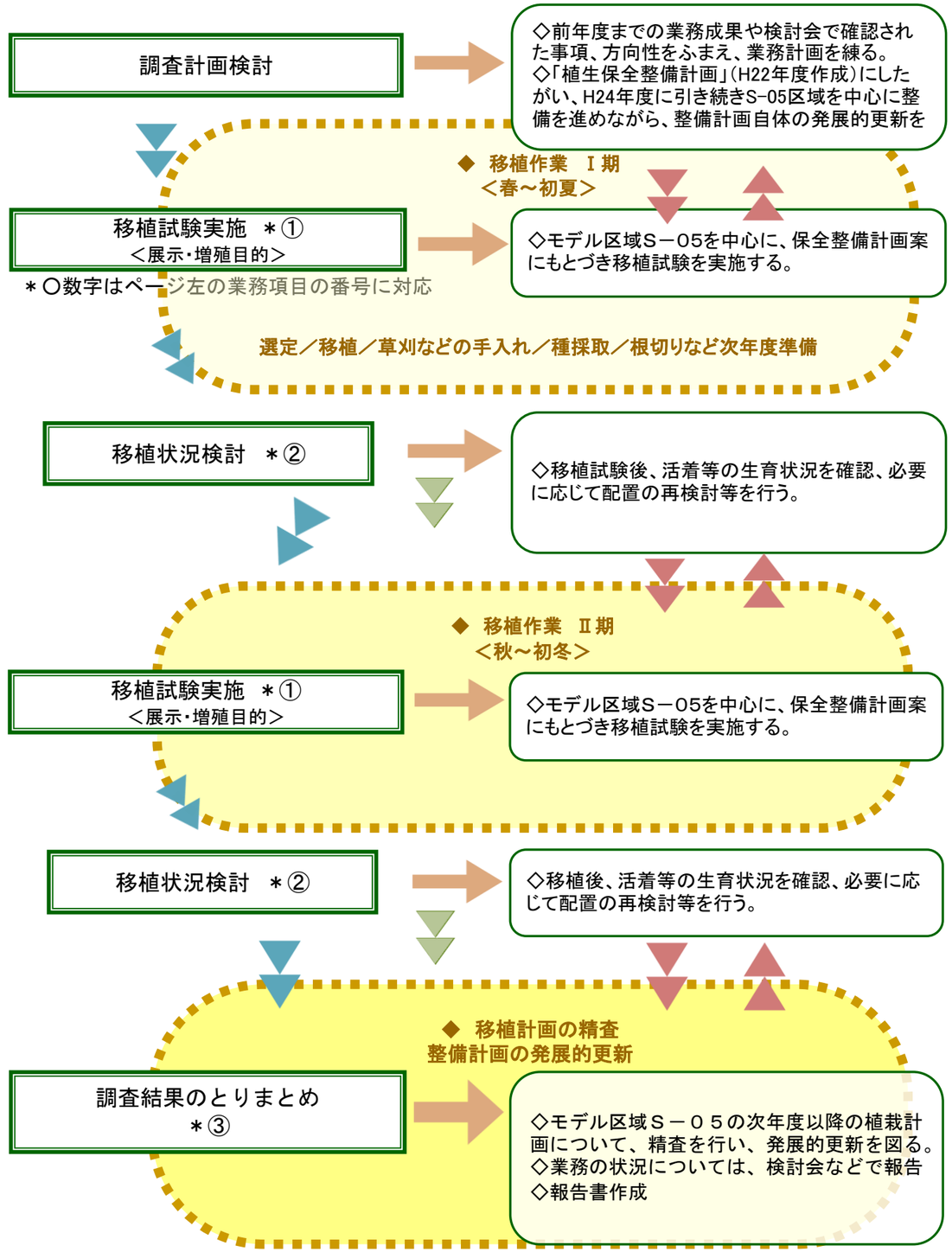
年間作業工程（行程）概要

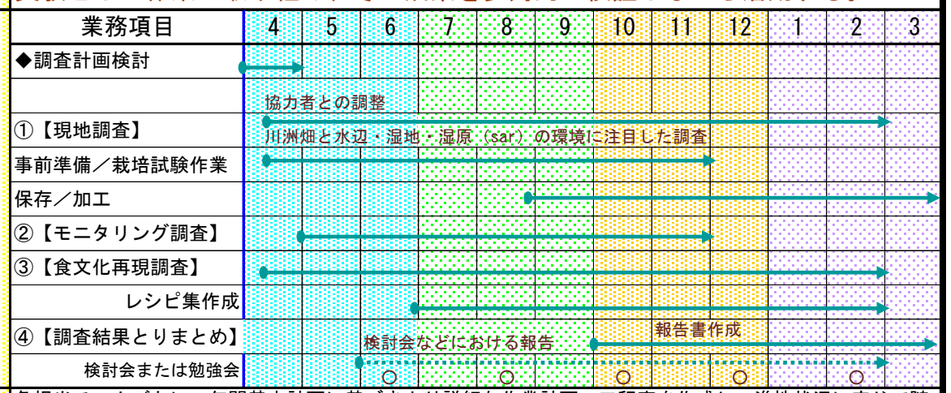


作業･工程上の留意事項	各担当チームごとに、年間基本計画に基づきより詳細な作業計画・工程案を作成し、進捗状況に応じて随時見直しを行いながら業務課題を遂行する。 また、各分野担当チーム間の、あるいは各グループ相互の連携・協力に努める。 アイヌ文化情報センターを基盤とした情報の受・発信と、各種の文化振興事業・活動及び町立博物館・歴史館等関係機関との連携・協力の拡充を図る。
◎主･○副担当	◎黒川賢司　　○平村祐樹　／　本多　淳　／　加藤拓夫
補佐	◇木村真奈美
【参考】 前年度の成果総括 A◆成果の概括 B◆その特徴 C◆意義･課題	A◆Ｈ２２年度に作成したＳ－05区域を中心とした《植物保全整備計画》にしたがって木本・草本の移植などの作業を進めた。その後はモニタリングを行っている。整備の進捗状況は概ね計画どおりである。今年度の作業状況等をふまえて《計画》のバージョンアップ（更新）も行っているところ。 B◆≪計画≫は、植物保全の二つの方向性、「主として展示を目的」・「主として増殖を目的」の内、前者に重き。「人間の一生と植物の関わり」を全体の軸にしつつ、儀礼・食用・薬用などのテーマを組み合わせた展示シナリオ・構成となっている。植物観察ツアーのガイドなど、普及の場としての整備を意識した試みにも取り組み、好評を博した。ハード・ソフト両面で保全ネットワークを拡充する展望が開かれてきた。 C◆地域住民が主体となった植生とその伝統的利用に関する調査を基礎に、住民自身が専門家との協働のもとに保全計画を作成し、着手・実行段階にいたっているという点で先行例があまりなく、貴重な取り組みが軌道に乗りつつある。

■ 2-生物の生存環境現地調査の計画基本フロー ■

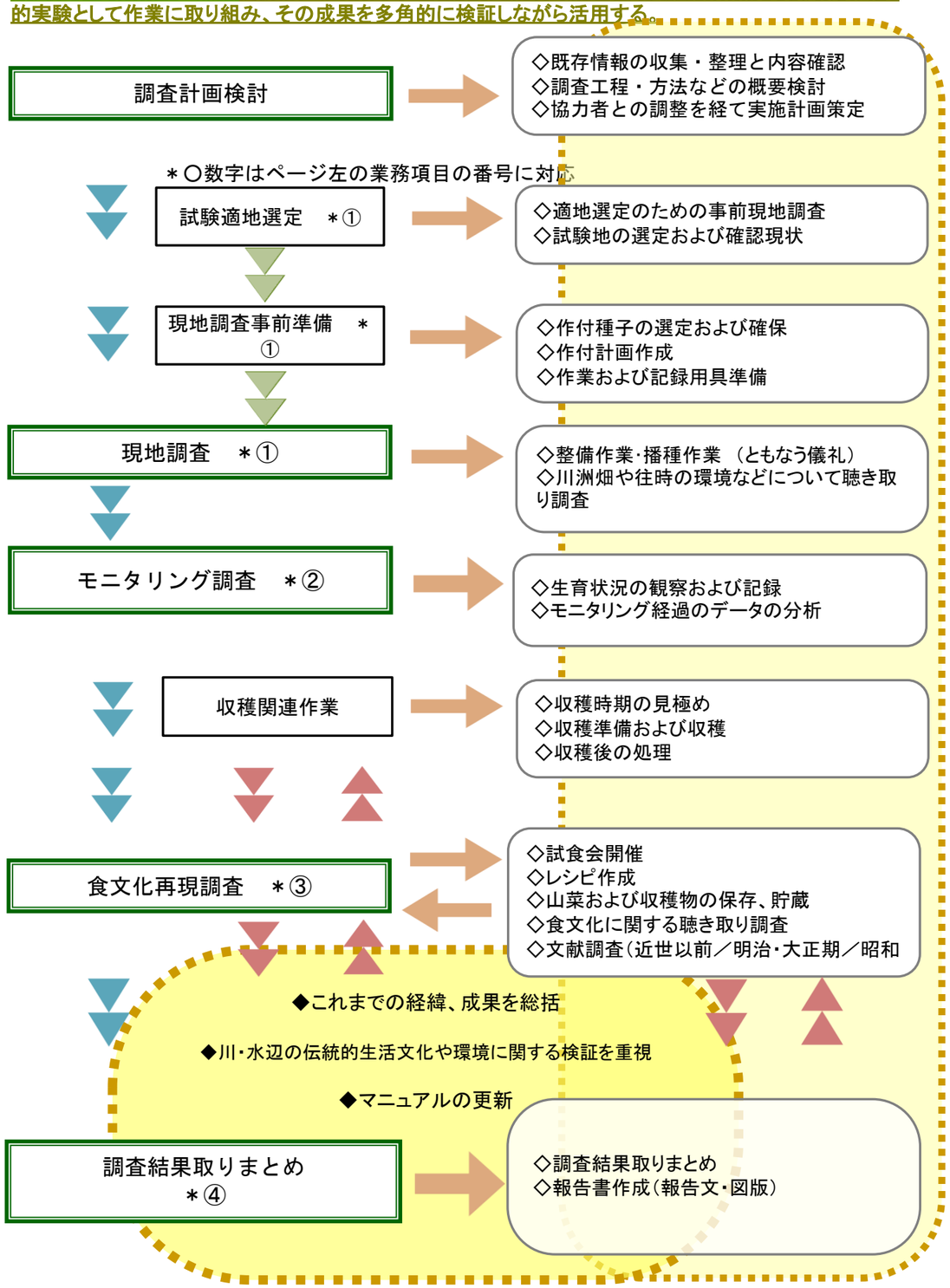
★想定する成果の重点★整備計画を発展的に更新しながら、S-05区域を主に展示を目的としたエリアとして先行的に整備しつつ、保全のネットワークを拡充していく。

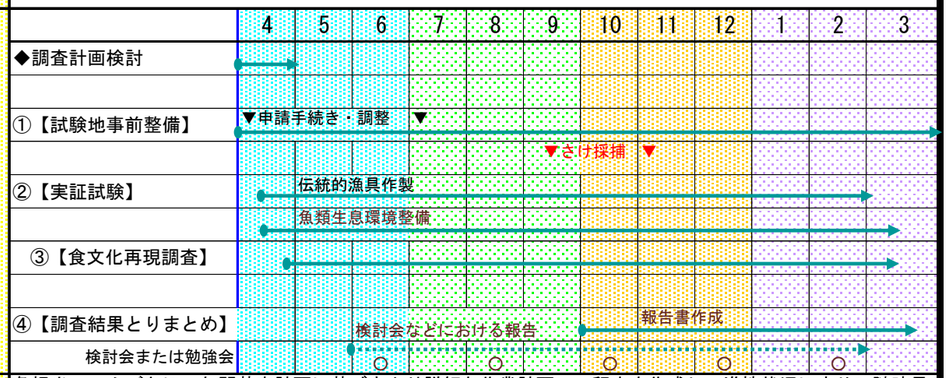


事業名	平成25年度 アイヌ文化環境保全調査
業務分野	**３ - 生活文化現地調査 （１） 川洲畑現地調査**
目的／課題 ※1	◆アイヌ文化期にかつて行われていた栽培様式（川洲畑）について、栽培様式を伝承する際の基礎資料とするため、既存の調査結果を踏まえて、試験適地を選定し栽培試験を行う。試験結果に基づき生育状況を把握し、データを蓄積するとともに、収穫物を利用したアイヌ文化期の食事等、当時の生活様式の再現を行う。また、調査結果に基づき、川洲畑栽培マニュアル（案）を更新する。
業務項目と 内容･方法 ※2	①【現地調査】 現地調査選定箇所の事前準備及び栽培試験を行う。 ②【モニタリング】 川洲畑現地調査状況把握のためのモニタリングを行う。 ③【食文化再現調査】 調査結果を基に、実際にアイヌ文化期の食事についての再現（調理）を行う。 ④【調査結果とりまとめ】 調査結果をとりまとめる。これまでの調査結果を基に川洲畑調査マニュアル(案)を更新する。
想定する成果 （状況/物品）	＊○内の数字は上の欄に対応 ①→　これまでの調査を踏まえた実施計画／現地作業等とそのプロセスの記録 ②→　モニタリング（種別・条件別）のデータと分析 ③→　食文化の再現（レシピ集の作成と公開／試食会開催／評価） ④→　①・②・③の成果をまとめた報告書：マニュアルの更新を含む ★伝統的生活文化と往時の文化環境を探求するための効果的な民族(民俗)学的実験として作業に取り組み、その成果を多角的に検証しながら活用する。
年間作業工程 （行程）概要	
作業･工程上の 留意事項	各担当チームごとに、年間基本計画に基づきより詳細な作業計画・工程案を作成し、進捗状況に応じて随時見直しを行いながら業務課題を遂行する。 また、各分野担当チーム間の、あるいは各グループ相互の連携・協力に努める。 アイヌ文化情報センターを基盤とした情報の受・発信と、各種の文化振興事業・活動及び町立博物館・歴史館等関係機関との連携・協力の拡充を図る。
◎主･○副担当	◎貝澤輝三　　○村木直美　／　加藤拓夫
補佐／グループ	◇川島五月
【参考】 前年度の 成果総括 A◆成果の概括 B◆その特徴 C◆意義･課題	A◆伝統的農法の一つ、川洲畑について、２カ所の試験地（＋１カ所の栽培試験畑）を設け試行を続けている。過去５年間の取り組みの蓄積に加え、この農法継承の基礎資料を拡充して、それらを踏まえた「まとめ(マニュアル案)」を形にしたが、さらに充実・更新を図っている。食文化面では、レシピ集の充実を進めている。 B◆栽培法の試行という目的に加え、次の２点をこの分野の取り組みを特徴づけるものとして重視。①協力者の知見・体験を、文献などによる情報と関連づけ、往時の生活文化や自然環境とその変遷を把握する作業も並行し、図や年表などによりその成果を多角的に、わかりやすく示す工夫を行っている。②これらの作業過程が、若い世代が実践的・体感的に伝統文化を継承するプロセスともなるように配慮しながらの取り組みである。 C◆上記の特徴を踏まえ、マニュアル案をはじめ成果のまとめは、「伝統的生活文化と過去の自然・文化環境を調査する一つの効果的な民族(民俗)学的実験として、これまでの成果を吟味・分析し、普及活用のあり方を提示する」ことに留意し作成している。今後さらに継続的充実を図りたい。

■ 3-(1) 川洲畑現地調査の計画基本フロー ■

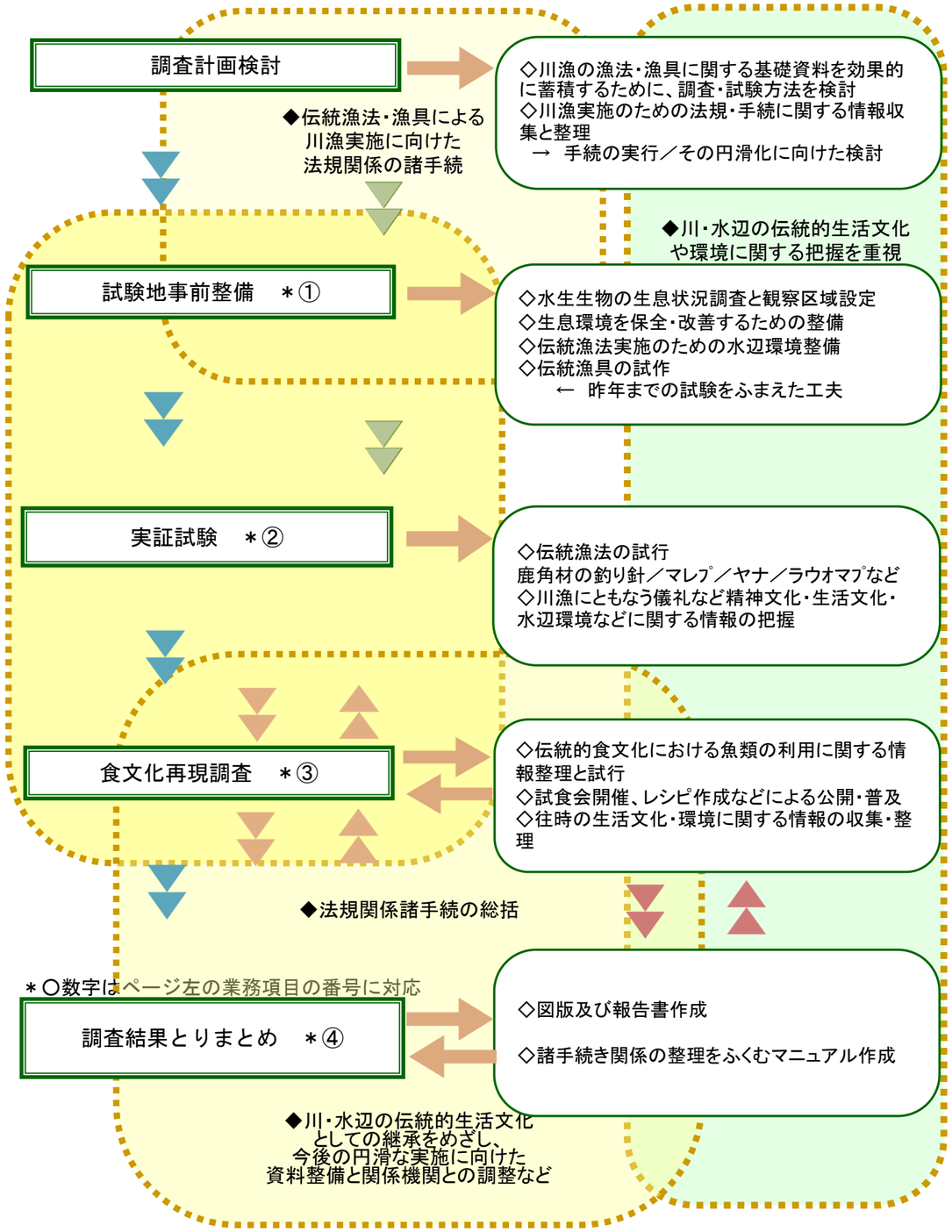
★想定する成果の重点★伝統的生活文化と往時の文化環境を探求するための効果的な民族(民俗)学的実験として作業に取り組み、その成果を多角的に検証しながら活用する。

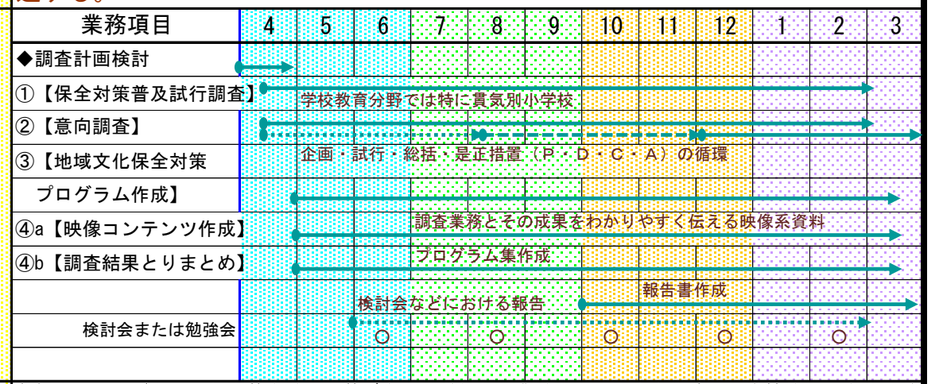


事業名	平成25年度 アイヌ文化環境保全調査
業務分野	**３ - 生活文化現地調査** **（２）伝統的漁法についての調査**
目的／課題 ※1	◆アイヌ文化期にかつて行われていた伝統的漁法について、伝統的漁法を伝承する際の基礎資料とするため、既存の調査結果を踏まえ、漁具や漁法を再現するとともに、試験の実施、データの蓄積を行い、調査結果をとりまとめる。また、既存の調査結果に基づき、伝統漁法再現マニュアル（案）を更新する。
業務項目と内容･方法 ※2	①【試験地事前整備】　これまで実証できていない漁具・漁法について、漁法検証試験の実施効率を上げるため、適地の選定、漁具の作製、周辺整備を実施するとともに、関係機関への協議資料等の作成を行う。 ②【実証試験】　これまで実証できていない漁具・漁法について、伝統的漁法現地調査・モニタリングを行う。 ③【食文化再現調査】　調査結果を基に、実際にアイヌ文化期の食事について再現（調理）を行う。 ④【調査結果取りまとめ】　調査結果をとりまとめ、これまでの成果を基に、マニュアルとして取りまとめる。
想定する成果 （状況/物品）	＊○内の数字は上の欄に対応 ①→　試験地絞り込みと周辺環境の整備、諸手続書類と手引き（マニュアル） ②→　漁具作製、その素材・作製技法・使用法・伴う儀礼等の調査 モニタリングによる記録の保存・分析／マニュアル化 ③→　食文化の再現（レシピ集の作成と公開／試食会開催／評価） ④→　①・②・③の成果をまとめた報告書：マニュアルの更新を含む ★地域に根ざし育まれてきた「川の文化」の重要な要素であった多様な伝統漁法を再現、今日的環境の中で継承・活用しながら新たな生活文化として定着を図る。
年間作業工程 （行程）概要	
作業･工程上の留意事項	各担当チームごとに、年間基本計画に基づきより詳細な作業計画・工程案を作成し、進捗状況に応じて随時見直しを行いながら業務課題を遂行する。 また、各分野担当チーム間の、あるいは各グループ相互の連携・協力に努める。 アイヌ文化情報センターを基盤とした情報の受・発信と、各種の文化振興事業・活動及び町立博物館・歴史館等関係機関との連携・協力の拡充を図る。
◎主･○副担当	◎平村祐樹　　○黒川賢司　／　村木直美　／　本多　淳
補佐／グループ	◇長野　環
【参考】 前年度の成果総括 A◆成果の概括 B◆その特徴 C◆意義･課題	A◆H22年度以降本格化した特別採捕の取り組みを踏まえ、サケ漁をはじめ伝統漁法を実施するための諸手続や現地環境整備等に関係者・機関の協力をいただき、試行を継続できた。松明を用いた夜間の灯漁など、新しい試みも実施できた。川漁の道具・方法に直接関わることだけでなく、行政的対応のノウハウもふくめた基礎資料が整備されつつあり、伝統文化継承のための採捕の定着とさらなる充実が期待できる状況。 B◆地域外に向けたイベントではなく、生活に根ざした家族・小集落単位による古来の営みを再現するという想定で試行してきた。そうしたこだわりゆえに得られたと思われる知見・体験、その中での葛藤も多く、伝統文化の探求を深める上で、またその継承のあり方を検討するためにも有意義な取り組みとなっている。 C◆当面の目標である「地域に根ざし育まれてきた“川の文化”の重要な構成要素であった伝統漁法を再現、今日的環境の中で継承・活用し、あらたな生活文化としていく基礎を固める」ための取り組みが軌道に乗りつつあり、こうした流れを発展的に継続・促進していくことが課題。

■ 3-(2)伝統的漁法についての調査の計画基本フロー ■

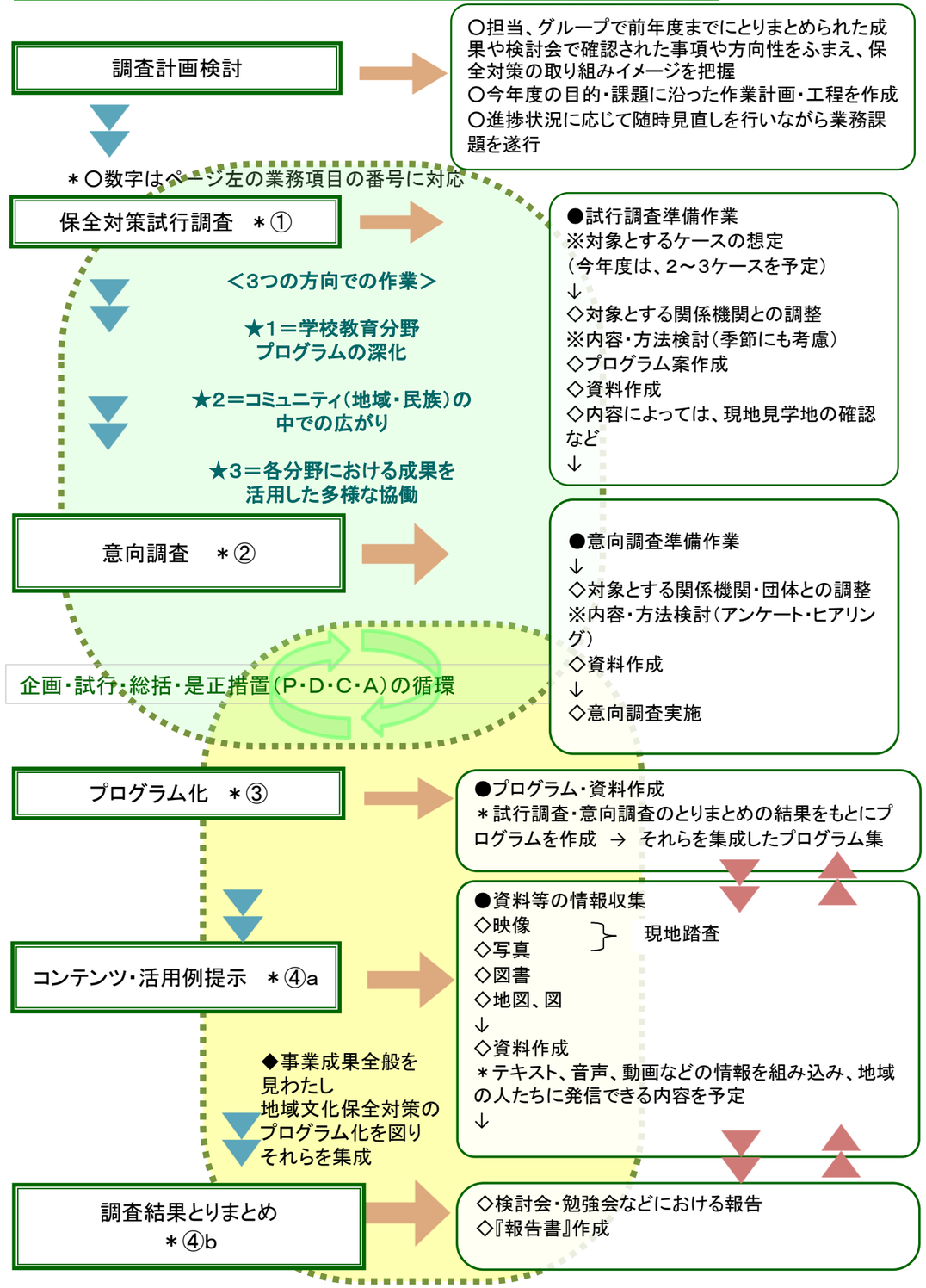
★想定する成果の重点★地域に根ざし育まれてきた「川の文化」の重要な要素であった多様な伝統漁法を再現、今日的環境の中で継承・活用しながら新たな生活文化として定着を図る。



事業名	平成25年度 アイヌ文化環境保全調査
業務分野	**４ - 地域文化保全対策調査**
目的／課題 ※1	◆既存の調査結果及び資料を整理し、地域文化保全対策として伝承できる方策として資料を作成する。また、資料を用いて関係機関・施設を対象に試行調査を実施し、収集した意見・感想等を踏まえた資料の修正及び調査結果のとりまとめを行う。
業務項目と内容･方法 ※2	①【保全対策試行調査】 既往の調査結果を基に、保全対策実施に向けた試行調査を行う。 ②【意向調査】 試行調査実施後、調査協力者から意見・感想等を収集し整理する。 ③【地域文化保全対策プログラム作成】 既往の調査結果等を基に、地域文化保全対策方策として活用できるプログラム等を作成する。 ④【調査結果とりまとめ】 調査結果をとりまとめ、地域文化保全対策のための基礎資料を整理する。
想定する成果 （状況/物品）	＊○内の数字は上の欄に対応 ①→　各分野既往調査の成果を活かした保全対策の事例集（試行報告を含む） ②→　ヒアリングなどによる意見・感想等の集約・分析報告（循環的・双方向な） ③→　プログラム・資料集の作成 ④ａ→　映像コンテンツ作成と活用例提示 ④ｂ→　①・②・③の成果をまとめた報告書：プログラム集（事例集）を含む ★各分野の既往調査成果を文化資源として活用する方策を検討、プログラム化・コンテンツ化を図り、可能なものについては試行しながら具現・普及を推進する。
年間作業工程 （行程）概要	
作業･工程上の留意事項	各担当チームごとに、年間基本計画に基づきより詳細な作業計画・工程案を作成し、進捗状況に応じて随時見直しを行いながら業務課題を遂行する。 また、各分野担当チーム間の、あるいは各グループ相互の連携・協力に努める。 アイヌ文化情報センターを基盤とした情報の受・発信と、各種の文化振興事業・活動及び町立博物館・歴史館等関係機関との連携・協力の拡充を図る。
◎主･○副担当	◎木村真奈美　　○平村祐樹　／　貝澤輝三
補佐／グループ	◇吉原秀喜　／　長野　環
【参考】 前年度の成果総括 A◆成果の概括 B◆その特徴 C◆意義･課題	A◆Ｈ23年度までは貫気別中学校における社会科の授業に取り組んで来たが、今年度は貫気別小学校の「すずらん学習」に位置付き、３／４年生、５／６年生、それぞれで年間15コマを受け持って進めてきた。これまでの蓄積を活かしつつ、また新たにさまざまな工夫を加え、系統的である程度総合性をもったプログラムを練り上げ、年間を通し試行できた。これを軸に、アイヌ協会平取支部（とくに青年部）、平取アイヌ文化保存会、二風谷観光振興組合といった地域団体、あるいはＮＰＯ、企業、大学などとの協力により、多様な普及・活用事業を試行することができた。シシリムカ文化大学(学長=川上満町長、主管=アイヌ施策推進課)の運営にも協力、町のアイヌ施策推進の一翼を担ってきた。 B◆①多彩な組み合わせ・方法の協働(コラボ)を重視し進めている、②スタッフが自分たちの調査成果を活かし、自身で多様なプログラムを工夫・開発しながら進めている、という特徴がある。また、事前・事後の協議、感想・意向の把握などを丁寧に行い、効果を高めるよう努めている。 C◆学校教育を含め、アイヌ文化普及・啓発の実践で、調査等による独自・最新の知見を活かしながら(文化継承＆調査保全の)担い手自らが行う効果的スタイルを新たに確立しつつある。

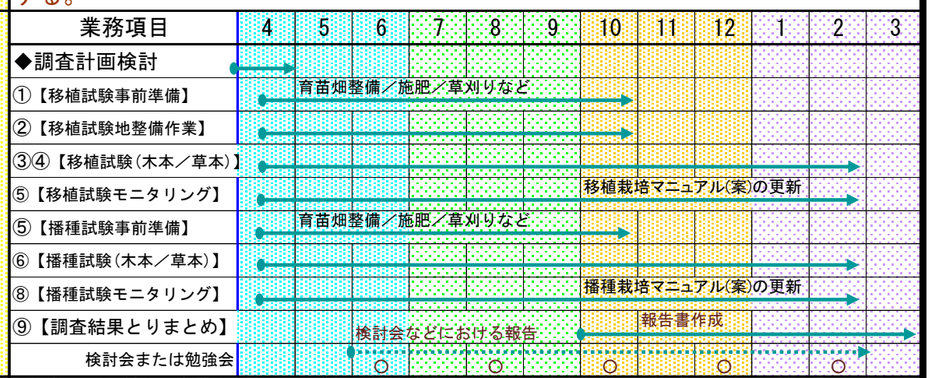
■ 4-地域文化保全対策調査の計画基本フロー ■

★想定する成果の重点★各分野の既往調査成果を文化資源として活用する方策を検討、プログラム化･コンテンツ化を図り、可能なものについては試行しながら具現･普及を推進する。



事業名	平成25年度 アイヌ文化環境保全調査
業務分野	**５－有用植物移植試験及びモニタリング調査**
目的／課題	◆これまでの調査結果・計画に基づき、有用植物の移植試験及び播種栽培試験を実施する。試験結果を踏まえ、有用植物の種ごとの移植マニュアル・播種栽培マニュアルの更新を行う。また、移植及び播種の状況（既に実施している有用植物を含む）を確認するために、モニタリング調査及び試験地の整備作業を行うとともに、移植試験結果に基づき、モニタリング計画の更新を行う。なお、試験実施する種については、調査職員と協議の上決定する。
業務項目と内容･方法	①【移植試験事前準備】移植試験実施に必要となる事前準備（現地確認等）を実施する。 ②【移植試験地整備作業】活着率を上げるため、移植箇所付近の除草、食害防止を実施する。 ③④【移植試験（木本③／草本④）】 主としてこれまで実施されていない木本／草本を対象として、移植試験を行う。 ⑤【移植マニュアルの整備】移植試験を実施した植物について、移植栽培マニュアルの更新を行う。 ⑥【播種栽培試験事前準備】播種栽培試験に必要な事前準備を行う。 ⑦【播種栽培試験】有用植物についての播種栽培試験を行う。 ⑧【播種栽培マニュアル(案)の整備】 播種栽培試験を実施した植物について、播種栽培マニュアル(案)の更新を行う。 ⑨【試験結果とりまとめ】 各種毎に、現地での活着状況の確認や除草、食害対策等モニタリングを実施するとともにモニタリング項目や頻度等を示したモニタリング計画(案)をとりまとめる。
想定する成果（状況/物品）	＊〇内の数字は上の欄に対応 ①→　移植試験地絞り込み周辺環境の点検・整備 ②→　移植試験地の点検・整備 ③④→　移植試験（未実施種中心）過程記録 ⑤→　移植試験結果分析、マニュアルの改訂(version up／2012版) ⑥→　播種試験地絞り込み周辺環境の点検・整備 ⑦→　播種試験（未実施種中心）過程記録 ⑧→　播種試験結果分析、マニュアルの改訂(version up／2012版) ⑨→　①～⑧の成果をまとめた報告書：マニュアル更新を含む ★植物の育成・保全に関するノウハウやスキルの集積・研鑽に努め、文化環境保全対策の基盤拡充を図りつつ、情報提供などを通じ関連諸事業と地域振興に寄与する。

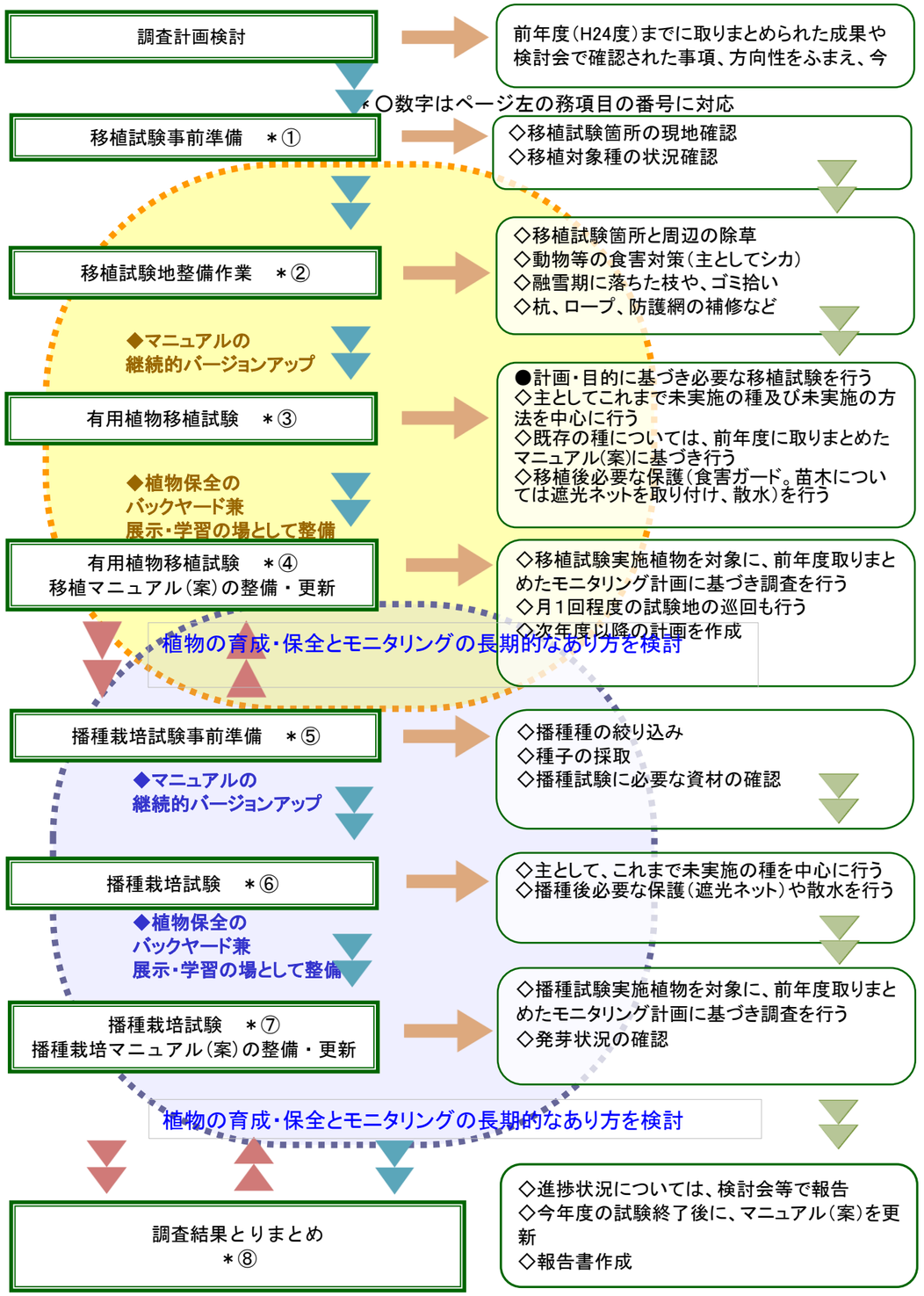
年間作業工程（行程）概要

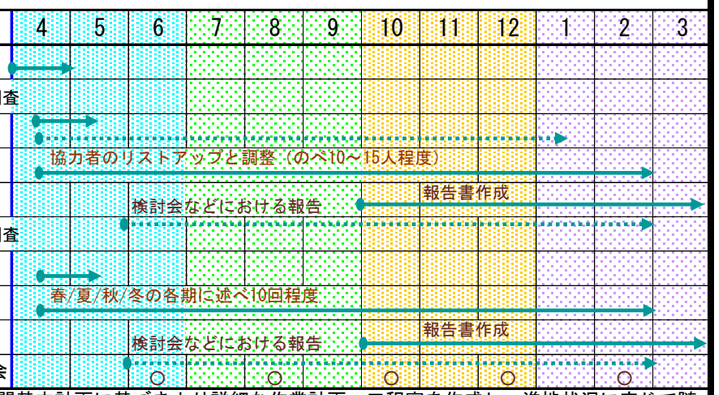


作業･工程上の留意事項	各担当チームごとに、年間基本計画に基づきより詳細な作業計画・工程案を作成し、進捗状況に応じて随時見直しを行いながら業務課題を遂行する。 また、各分野担当チーム間の、あるいは各グループ相互の連携・協力に努める。 アイヌ文化情報センターを基盤とした情報の受・発信と、各種の文化振興事業・活動及び町立博物館・歴史館等関係機関との連携・協力の拡充を図る。	
◎主･〇副担当	◎貝澤朱美	〇貝澤　輝三　／　本多　淳　／　加藤拓夫
補佐	◇川島五月	
【参考】前年度の成果総括 A◆成果の概括 B◆その特徴 C◆意義･課題	A◆二風谷にある育苗畑など、これまで整備してきた環境やノウハウの蓄積を活かし、アイヌ伝統文化の観点から有用性が高い植物について種ごと、あるいは育成方法別のマニュアルを作成し、試行・モニタリングを重ねながら、その充実を図っている（更新版作成）。また、試験地の整備も引き続き行い、今後に向けて保全対策の基盤拡充を図った。 B◆H22年度に作成したマニュアルは、さまざまな試行錯誤・創意工夫を盛り込んで内容が充実しつつあり、利用目的に応じて編集をしたパンフレットなど、多様な形態での情報提供、成果活用が可能となりつつある。来訪者へのガイドも試行を重ねている。 C◆伝統的文化の観点から有用性が高い植物の「育成」については、系統性・継続性をもった包括的な取り組みの事例が他にあまりない。そうした状況のもと、地域住民であり、文化継承の担い手でもある人たちが自ら調査と試行を重ね、それを踏まえ、何よりも今後の自分たちの作業にとって手引きとなり、関連事業の従事者にとっても参考となるマニュアルなどが形になりつつあることの意義は大きく、さらに充実させ、活用を図りたい。	

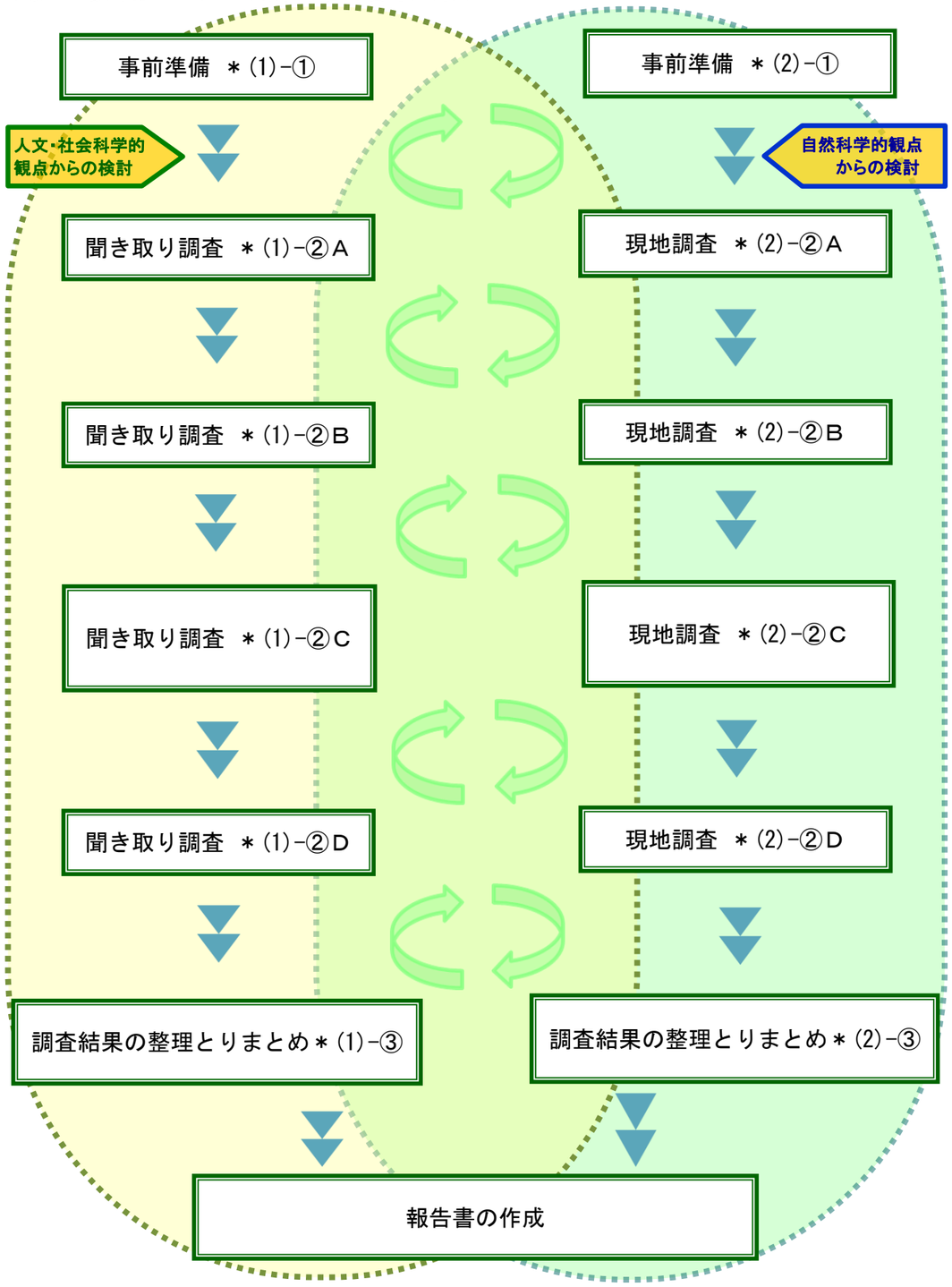
■ 5-有用植物移植試験及びモニタリング調査の計画基本フロー ■

★想定する成果の重点★植物の育成･保全に関するノウハウやスキルの集積･研鑽に努め、文化環境保全対策の基盤拡充を図りつつ、情報提供などを通じ関連諸事業と地域振興に寄与する。



事業名	平成25年度 アイヌ文化環境保全調査
業務分野	**６ - 沙流川河道掘削における事前調査**
目的／課題 ※1	(1)地域文化保全に関する調査 　地域文化の保全対策に必要な現地調査として、沙流川右岸kp6.6～8.2区間に予定している河道掘削箇所周辺における川や沢などのアイヌ語地名及びチノミシリ等の聞き取り調査を実施し、調査結果について整理とりまとめを行う。 (2)河道掘削予定箇所現地調査 　沙流川右岸kp6.6～8.2区間に予定している河道掘削箇所周辺について、既存資料に基づく植生状況の現地確認を行い、アイヌ文化の伝承、振興に欠かせない素材や資源を供給する上で必要な河川環境の有無の確認を実施し、調査結果について整理とりまとめを行う。
業務項目と 内容・方法 ※2	(1)地域文化保全に関する調査 -①事前準備＝河道掘削箇所周辺における地域文化保全対策に関する調査の事前準備 -②対象区域聞き取り調査＝地域文化保全対策に関する聞き取り調査 -③調査結果とりまとめ＝調査結果をとりまとめ地域文化保全対策のための基礎資料を整理 (2)河道掘削予定箇所現地調査 -①事前準備＝河道掘削箇所周辺の既存資料に基づく植生状況についての事前準備 -②現地調査＝河道掘削箇所周辺の既存資料に基づく植生状況についての現地調査 -③調査結果とりまとめ＝工事実施に向けた植生調査結果をとりまとめ整理
想定する成果 （状況/物品）	＊印の数字・記号は上の欄に対応 (1)-①事前準備＝協力者のリストアップと調整／マニュアル再検討（私権に対するポリシー等） -②対象区域聞き取り調査＝のべ10～15人程度　＊右頁(1)-②A～D -③調査結果とりまとめ＝アイヌ語地名とチノミシリ等の一覧とデータベース、文化環境概念図 (2)-①事前準備＝調査手法・項目の検討/作業手順の確認 -②現地調査＝春/夏/秋/冬の各期に述べ10回程度　＊右頁(2)-②A～D -③調査結果とりまとめ＝植物リスト・分布図、生物相の概念図 ★(1)聴き取りを軸に、既存資料との照合・統合等による丁寧で多面的な把握に努める。(2)文化保全と河川環境のあり方について検討する基礎資料の集積を図る。
年間作業工程 （行程）概要	
作業・工程上の 留意事項	各担当チームごとに、年間基本計画に基づきより詳細な作業計画・工程案を作成し、進捗状況に応じて随時見直しを行いながら業務課題を遂行する。 また、各分野担当チーム間の、あるいは各グループ相互の連携・協力に努める。 アイヌ文化情報センターを基盤とした情報の受・発信と、各種の文化振興事業・活動及び町立博物館・歴史館等関係機関との連携・協力の拡充を図る。
◎主・○副担当	◎川島五月　　○長野　環　／　木村真奈美
補佐／グループ	◇吉原秀喜
【参考】 前年度の 成果総括 A◆成果の概括 B◆その特徴 C◆意義・課題	《新しい分野に取り組むにあたっての留意事項》 1．多角的・包括的な検証を志向 　→　『総括報告書』第Ⅰ部「調査委員会意見とりまとめ編」の関係部分を準用 2．協働を基本とした調査のスタイル・手法 　→　〈プロジェクトＳＡＲ〉の深化・展開（H24年度報告書3-(1)分野に記載）

■ 6-沙流川河道掘削における事前調査の計画基本フロー ■

★想定する成果の重点★(1)聴き取りを軸に、既存資料との照合・統合等による丁寧で多面的な把握に努める。(2)植生状況等文化保全と河川環境のあり方について検討する基礎資料の集積を図る。

＊印の数字・記号はページ左の業務項目の番号に対応